

火山災害への備え

火山災害にはどんなものがあるの？

噴石

爆発的な噴火によって岩石が吹き飛ばされることがあります。小さな噴石でも、体に直接あたると大けがをする危険性があるため、噴火口から2km以上離れるか、頑丈な建物の中に避難しましょう。

溶岩流

溶岩流とは高温の溶岩（マグマ）が斜面を流れくだる現象です。溶岩流が沼地や川に流れ込むと激しい二次爆発を引き起こすこともあります。

火砕流

火砕流とは数百度の岩石やその破片が、斜面を高速で流れくだる現象です。火砕流の特徴は、きわめてスピードが速いことで、遅いものでも時速100km～200kmに達します。

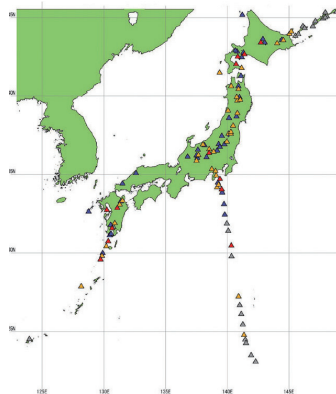
火山灰・火山泥流

噴火によってマグマや岩石が細かく砕けたものが、火山灰として風に運ばれて飛んできます。降り積もった火山灰は、雨が降ると土石流のようになって流木などを巻き込みながら下流に流れることがあります。

火山ガス

火口やふもとでは、地面から有毒な「火山ガス」が噴き出すことがあります。火山ガスの中には臭いがないものもあるため、火山ガスがたまりやすい低地などには、注意看板などが設置されています。そのような看板を見かけたら、近づかないようにしましょう。

※（社）土木学会「日本に住むための必須!! 防災知識」を参考に作成



▲ ランクA 活動度が特に高い火山
▲ ランクB 活動度が高い火山
▲ ランクC 活動度が低い火山
出典:気象庁ホームページ

日本には、108の活火山があり、そのうち、過去火山および北方領土の火山を除く85の活火山は、その活動度によってランクAからCに分類されています。火山の周辺地域に住んでいる場合は、火山災害の危険性を正しく理解し、火山情報に注意しましょう。

火山情報に注意しましょう

火山情報には、噴火警報と噴火予報があります。噴火警報は、居住地域や火口周辺に影響が及ぶ噴火が予想された場合に、影響範囲を付した名称で発表されます。また、噴火警戒レベルを導入した火山では、噴火警報および噴火予報で噴火警戒レベルを発表します。噴火予報は、噴火警報を解除する場合や、火山活動が静穏（平常）な状態が続く場合に発表されます。

警報・予報区分	警報の呼び方	警戒レベル (キーワード)
噴火警報	噴火警報 正式:噴火警報 (居住地域)	レベル5 (避難)
		レベル4 (避難準備)
	火口周辺警報 正式:噴火警報 (火口周辺)	レベル3 (入山規制)
		レベル2 (火口周辺規制)
噴火予報		レベル1 (平常)

※気象庁ホームページの情報をもとに作成